

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/なごみ、かなで)

事業所番号	2793700069		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら千里丘		
所在地	大阪府摂津市千里丘6-6-35		
自己評価作成日	令和3年12月28日	評価結果市町村受理日	令和4年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.starts-care.jp/kirara_senrioka/">https://www.starts-care.jp/kirara_senrioka/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和4年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人の心を大切に、ふれあいを通じて笑顔、安らぎ、喜びを提供します」をホームの理念とし、いつも利用者様の心に寄り添った介護を全職員が実践しております。  
また、リビングや共用部は四季折々の飾りつけを利用者様と共に制作し、季節を感じていただいております。  
コロナ禍の世の中ですが、他の人との接触を出来るだけ避けながら近隣の公園を散歩したり、敷地内でバーベキュー大会を開催するなど工夫を凝らしながら、利用者様の日常に潤いと安らぎを感じていただけるよう、取り組んでまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の法人は高齢者支援、保育事業等を展開し、総合福祉サービスを提供している「スターツ」で、アスリート・アーティスト(マラソン・卓球・交響楽団等)の文化活動も支援し応援し、又在宅支援から入居施設までの幼老複合施設等、多世代コミュニティの創出を目指している。今年で5年目を迎える当事業所は近隣に大きな公園やスーパー、公民館があり、利用者は一日一度は外気に触れる散歩や買い物を通じて地域の方々と挨拶を交わす交流を図っている。事業所は自立支援を目的に残存機能を考慮しながら職員と一緒に買い物に行き、食事を一緒に手作りの食事を作ったり、炊事洗濯、掃除など出来る事に喜びを感じている。現在コロナ禍で外食も出来ないのも、晴れた日には庭でバーベキュー大会を開催するなど、職員は利用者優先の楽しい企画を工夫しながら取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念を全スタッフに周知徹底し、全員で同じ方向に向かって、ホームを作っていくよう、努力しております。	「人の心を大切に、ふれあいを通じて、やすらぎ、喜びを提供します」の企業理念と事業所理念の「四季を感じる」を掲げて、施設の中だけでなく散歩や地域との関りの中で何事も五感で体感して欲しいとの思いを職員は共有して実践につなげている。管理者は今年、開設5年目を迎えるので、理念の見直しを検討中である。	「家庭的な環境の下で」と言われてきたグループホームが、平成18年度に制度改正により地域密着型サービスとしての役割を目指した内容の理念が求められている。管理者と職員は話し合い、母体組織の理念そのままではなく、事業所の現状に合った独自の理念づくりを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域の方との交流には制約がありますが外気浴や散歩をしたり、面会などを通じて出来る交流を模索しております。	自治会に加入している。近隣の公園、買い物に行く時に出会う地域の方と気軽に挨拶を交わし、公民館管理者や婦人会の方から地域の情報(地域の夏祭り、餅つき、敬老会等)を頂き、積極的に参加している。従来は地域のボランティアも受け入れてクリスマス会やひな祭りなど家族も一緒に楽しむ機会があった。現在は事業所の広場でバーベキューを楽しむなど出来ることを探している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事も中止中が多くなかなか参加は出来ないが活動があれば参加していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在は少人数での開催としており関係各所との連絡を取り、ご家族の方々から頂いたご意見を活かしサービスの向上に努めております。	会議は年6回、自治会役員、民生委員、市職員、家族、利用者、職員の出席で事業所の現状報告(入居状況、事故、ヒヤリハット、行事報告、活動予定)等をして双方向的な会議を開催して、地域との良好な関係を築いている。現在はコロナ禍で書面開催となっているが、関係者とは主に電話とFAXで連絡を取り合って、率直な意見、提案はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所との常に連携が取れる様に対応させていただいております。	高齢介護課担当者は運営推進会議のメンバーであり、申請や相談(認知症カフェやキャラバンメイト提供について)は気軽にできる関係が築かれている。事業所連絡会やWEB研修等に参加しているが現在、直接開催ではなく、メールでのやりとりが主となっている。今回のコロナ対策では手袋、エプロンなどの配布があり助かっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等の適正化のための指針と委員会を作り、2か月に1回必ず開催し、職員も定期的に研修をして情報共有をしている。身体拘束・虐待の防止・権利擁護についても話し合い、防止に努める。	身体的拘束等の適性化のための対策を検討する委員会を2か月に1回行って、職員の研修も年2回実施している。スピーチロックなどは極力発しない様に全体会議などで通達し「ちょっと待って」のちよつとを〇〇が終わったらずぐに伺います等に言い方を置き換えるなど拘束を意識してケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1回必ず身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束・虐待の防止・権利擁護についても話し合い、防止に努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2か月に1回必ず身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束・虐待の防止・権利擁護についても話し合い、防止に努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までに、契約までの流れを解りやすく、細かく説明させていただき、ご納得されたうえで契約をさせていただく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関先に設置したり介護相談員の方をお迎えし、ご意見を頂いた際には早急に検討し反映させていただける体制を設けている。	「生活状況報告シート」に個々のホームでの生活状況について報告して、毎月家族に送付している。 以前は日中玄関の施錠はせず、自由に出入りしていたが、家族から「防犯上の観点から施錠してほしい」と要望があり玄関の施錠をしている。コロナ禍で少し緩和された時、家族の面会の希望で玄関前のベンチで面会機会を取り入れるなど工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議とユニット会議を実施。その他常に悩みや困りごとを聞きやすい雰囲気づくりをしております。	その都度、面談や雑談など話し合える風通しの良い環境がある。またユニット会議の際に発言する時間を設けている。利用者は最近の流行りや若者のするようなことにも興味を持たれていると、話題に出れば即行事に取り入れてハロウィンやチョコレートファウンテンなどを催し利用者に大好評であった事例がある。この企画は今後も取り入れたいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給及び賞与に関しては考課表をもちいてフィードバックするようにしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、毎月の研修を実施、個々には都度、個人の力量に合わせたケアの助言を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政で開催される研修に参加させていただき交流する機会を設けていただいております。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントをしっかりと取り、入所当初はコミュニケーションの時間を多く取り、本人の気持ちを理解すべく日々関係づくりに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調の変化やご様子は、毎月のお手紙でお知らせし、また特に急ぎの重要事項に関しては随時電話にて報告させていただき、その他の事項は訪問時に報告させていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリングの時間を設けさせていただき細かな変化にも早急に対応させていただけるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様から教わることも多々ありますので常に接遇等も大事にしながらご利用者様と同じ目線で対応させていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員からご家族様にホームでの生活や体調などをご報告させていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でなければ、ご家族様はもとより親戚の方やご友人など特段制限を求めず時間も縛りなく気軽に訪問していただける環境づくりをさせていただいています。	職員は本人の大切な馴染みの友人、知人、家族、親戚の来訪時に歓迎し、気軽に今後も訪問が出来るように、その馴染みの関係性を職員も共有する様に努め支援している。定期的に家族と電話等でやりとりをしたり、家族の協力で外出もしていたが現在は中止している。馴染みの人に電話や手紙、はがきを出す希望があれば支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様に極カリビングで過ごしていただきスタッフが間に入り利用者様が孤立しないような環境づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホームのご利用が終了した後も、お互いに電話連絡をし、必要に応じてご相談をお受けするようになっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コロナ禍ではありますが、食べたい物などの希望をお聞きし実現できることは可能な限り実行させていただいております。	日常の会話で把握した希望、意向は電子カルテ(タブレット)に記録しスタッフ間で共有している。 思いや意向を表出しにくい人は 質問の内容を簡素化し2択で答えられるようにしたり、話しの中で言いたいことが出てくるまで傾聴し、本人の意向を把握し自己決定を促す対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やなじみの環境を重視し外出の機会を設けたり、好きなものをお聞きし献立に盛り込んでおります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時間や、就寝時間などは特に制限は特に制限を設けず自由な時間に寝起きしていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や日々の面会時等に頂いたご意見を反映させていただいています。	計画作成時には本人、家族の意向、希望を伺い、モニタリングシートやアセスメント用紙を参考に使用している。医師や看護師の意見が必要な場合は意見書をFAXでやりとりし訪問診療時で話し合っている。長期1年、短期半年以外に必要であれば都度更新している。計画の説明は基本、対面で話し、直接話せない場合などは電話で伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をどのスタッフが見てもわかりやすく見れるように、また申し送りノートを活用し、スタッフ間の情報共有に努めさせていただいております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の趣向に合わせて、家事支援の援助をさせていただいたり散歩や室内の飾りつけをさせていただいたりしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園を利用し、散歩などをさせていただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は毎月2回往診。急な体調変化はホームからの連絡を24時間オンコール対応させていただいています。	入所時の話し合いで15名が協力医の内科を主治医とし月2回の訪問診療を受けている。週1回の歯科診療(希望者)や歯科衛生士が口腔ケアのため訪問している。脳神経内科を定期受診の利用者には職員が同行している。訪問看護師は週1回の健康チェックに来ている。受診結果の特変時には電話で家族に報告し、医師・看護師とは24時間オンコール体制がとられ緊急時も安心である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問にて対応。体調変化についてはホームからの連絡を24時間オンコール対応していただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中や日々の訪問にて病院の連携室の方とコミュニケーションを図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に重度化した時のホームとしての指針を示し、重度化した際は早めの段階で本人やご家族様と話し合い十分な説明をし医療機関関係者とチームで支援できるように取り組みます。	直近では看取り体制下でチームケアを行っていた3名が最終的に病院(家族の希望)で最期を迎えている。家族からはそれまでの支援に「きららで良かった」との感謝の言葉が寄せられている。又、当ホームで最期を迎えたいと退院し、看取り体制で支援していた利用者が、現在ではトイレに行けるまでに回復している事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生マニュアルに従い訓練しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回以上の訓練を実施・予定しています。(総合・夜間・水害)	避難訓練は夜間も含め3回行っている。本年はコロナ禍により消防署の立ち会いはない。連絡網により近所の職員が短時間で駆けつける事ができる。防災対策委員会には防災士の資格を有する職員がいる。管理者は防災強化への取組みを重要視しておりBCP(災害後の事業継続計画)や地域との連携を深めるため消防団への協力要請を検討している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりのプライバシーを尊重する配慮や言葉かけ、対応を実施させていただいてます。	年間研修計画の中で接遇などを定期的に学んでいる。法人の研修部門によりDVDビデオ教材やWEBでの研修も適宜受けている。日々の支援では特に言葉使いに留意している。昨年よりライフ(科学的介護システム)を導入しており、ペーパーレス化が進み社員番号のパスワードで日々の記録を入力している。電子カルテは厳重なセキュリティのもとに安全に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご希望をお聞きし、施設のペースではなく、利用者様の自己決定で、生活できるように努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて、食事・入浴・散歩等の時間をご利用者様にあわせていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や、寝ぐせ直し等個人に合わせて身だしなみを支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じる食事のメニューを取り入れ、準備・片付けなどを一緒にさせていただいてます。	食事は献立から買い出しまで職員が行い手作りで提供し、美味しいと好評である。菜園の旬の野菜も食卓に上がる。利用者はできる範囲で参加し楽しみと生きがいになっている。行事食やおやつ作りでは利用者の好みを優先している。ユニット毎の食事委員会を定期的開催し内容を検討している。栄養面のチェックについては今後管理栄養士に依頼しようと検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の献立をバランスよく摂取できるように考え水分もコーヒー・紅茶・ココア・緑茶など豊富に取り揃え選んでいただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士が週に1回訪問して個別にケアを指導しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレを利用させていただき、生活リハビリしていただけるよう、取り込んでおります。	日中は全員、トイレでの排泄を目指している。排泄パターンを把握し時間を決めず個々に合わせてトイレへ誘導する。夜間はトイレ誘導が殆どだが、用心のためオムツを利用している数名にはパット交換で対応するなど個別に排泄支援を行っている。退院後に看取り体制にあった利用者が現在ではオムツをはずし自力でトイレに行けるまで改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、摂津市の体操を行い、野菜ジュースの摂取、また水分をしっかりと飲んでいただいております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いをせずにお声掛けをし、その日に入浴をご希望されないときは別の日に入浴していただくなど、臨機応変に対応させていております。	入浴は週2回、午後2時から4時まで3人を目処に余裕のある入浴タイムをとっている。1時間近い長風呂の利用者にも柔軟に対応し家族から感謝の声が寄せられている。お湯はその都度替え、入浴を拒否したり、浴槽をまたげない状態にある時も無理強いせずシャワー浴や足湯などで清潔保持に努めている。入浴剤や季節を感じるゆず湯などで入浴を楽しんでもらう工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度に配慮し眠たくなされた時に寝ていただける様に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前にはスタッフふたりでお名前を何月何日〇〇様〇錠〇包きますとダブルチェックし、ご本人様と一緒にもう一度確認したのち服用していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日1回は必ず外気に触れるか洗濯もの干しや買い物・散歩・レクリエーションなどを実施していますが、ご本人様に合わせて無理強いをしない様に心がけております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただけるようなお散歩を心がけています。	コロナ禍でも毎日欠かさず外気浴の実践に取り組んでいる。緑豊かな立地にあり、近隣の人工池の遊歩道の散策(週2回)に小人数で出かけている。暑さ寒さにかかわらずウッドデッキに出たり、ベンチのある玄関側のプランターの水やりを誘導し季節を体感してもらっている。コロナ禍収束後は休止している家族・利用者と共に出かける恒例の食事会を再開したいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍により、外出が難しいため、利用者様の希望をお聞きし、ご希望される趣向品などを代わりに購入しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や文通などは特に制限なく自由にしていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は安全に利用できるように配慮しています。ソファは皆さんご自由に使用していただいています。	大きな掃き出し窓があり明るく居心地の良いリビングである。壁面の飾り付けは季節の貼り絵(富士山の初日の出・節分)を職員と共に作り玄関などに飾っている。オープンキッチンは利用者が作業がやりやすい様に流し代を低めにしたり家電を平置きにするなど細かい配慮が見られる。清掃は職員と共に多くの利用者が参加し清潔で整理整頓されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや長椅子などを配置し思い思いに過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族様からヒアリングさせていただき、なじみの家具等の配置をいただいています。	居室はベランダに接しており採光が良く明るい。ベッドは利用者の持ち込みでリース利用が多い。エアコン・クロゼット・防災カーテンは事業所で設置している。愛着のある使い慣れた家具をもちこみ小物や写真を飾って落ち着いて過ごしている。災害に備え家具の配置は安全面を重視している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台やトイレは自由に使用していただけるよう清潔保持に努めております。		